

平成 29 年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業報告

平成 29 年度は、法人の理念を基に、基本方針を「介護人材の確保とサービスの質の維持と充実を図る」と掲げました。昨年に引き続き介護人材の確保は厳しく、平成 25 年 2 月に開設しました悠ゆうみなみちようは、全室稼働に至りませんでした。今年度は、全室稼働に向け職員一丸となって鋭意努力致します。

1. 実施計画として以下の 5 項目を掲げました。

- ① サービスの質の維持
- ② 人材育成と働きがいのある職場づくり
- ③ 地域ネットワークづくり
- ④ 施設の改修・保全計画の策定
- ⑤ 社会福祉法人制度改革への対応

〈事業実施報告〉

- ① 特養の施設サービスの質の維持と充実に向けて、人材確保のため求人サイトや求人雑誌、求人広告等を駆使し、面接会にも可能な限り参加しましたが思うような成果は得られませんでした。
- ② 職員同士や外部講師も含め事業所全体の連携に努めました。
- ③ デイサービスを中心に地域活動を実施しており概ね好評を得ております。この活動をさらに広げていければと考えております。
- ④ 施設の改修・保全については、今年度大規模修繕を実施します。
- ⑤ 社会福祉法人の制度改革への対応は、概ね実施できました。

2. 決算報告（借入金償還を含む）

※別紙参照

3. 事業別報告

4. 理事会・評議員会開催（理事 6 名、監事 2 名、評議員 9 名／現員）

理事会開催は、平成 29 年 5 月 29 日、6 月 19 日、平成 30 年 3 月 19 日

評議員会開催は、平成 29 年 6 月 19 日

5. 会議開催報告

- ① サービス責任者定例会議 毎月第 2 月曜日に開催しました。
- ② 安全衛生委員会・危機管理委員会 (①と同日開催)
- ③ 給食会議 毎月最終木曜日に委託業者を含め開催しました。

6. 研修報告

- ① 職員研修 毎月 1 回開催しました。
- ② 看取り・喀痰吸引の研修 其々年 1 回開催しました。

- ③ 感染予防、事故、身体拘束防止に関する委員会及び研修会
委員会は毎月開催し、研修会は其々年2回開催しました。

7. 改修・購入報告

- ① 防犯設備改修（補助金対象事業）

人感センサー設置、防犯カメラ・職員出入口電気錠の交換、電気錠、自動ドア等の改修を実施しました。予定しておりました外灯工事は見送りました。

また、今年度は、設備機器の交換、修繕を集約し大規模修繕を実施します。

8. 職員採用状況報告

厳しい状況が続いていますが、施設・通所サービスにおいては、新設されました処遇改善加算Ⅰの条件を満たす体制がつけられました。

平成 29 年度 特別養護老人ホーム悠ゆう 事業報告

<目標>

入居者の関わる全ての人と協働して施設サービス計画の充実をはかる

<実施計画>

1. 認知症ケアへの理解、重点を置き、個別ケアに努める
2. 慰問、ボランティア、行事を通じ地域交流が出来るように努める
3. 生きがいを持って働ける職場環境、人材育成、資格取得支援に努める
4. 研修計画を立案

<実施報告>

目標にあげられていた多職種との協働、連携をはかり施設サービス計画を通じ個別ケアを検討する事が出来てきている

1. 認知症の外部研修への職員参加により、理解を深め、個別ケアの重要性を職員間で共有できた
2. 慰問時には運動教室へ参加してくださる方へ声を掛け一緒に参加してもらうことで地域の方と交流をはかる事ができた
3. 働きやすい環境を整え、職員の定着につながった
4. 外部講師を招いての施設内研修を年間通して行う事ができた

機能訓練

<目標>

生活環境の整備と生活の為の機能訓練

<実施計画>

1. 個別機能訓練計画に基づく日常生活に即した生活リハビリの実施
2. 生活リハビリの中で入居者と共にユニット環境を整備し、日常生活の充実を図る
3. 口腔機能向上のための口腔体操を実施

<実施報告>

生活環境の整備と生活の中での機能訓練を実施できた。

1. 個別機能訓練計画を立て、計画に基づき、椅子への座り替えや体操を継続することに

より姿勢保持・筋力の維持を目指して活動できた。

2. 生活環境の整備は本人に合った安心して穏やかに過ごせる居場所となった。また、野菜や花などを植える作業を通じて、季節感を感じて頂くことができた。
3. 体操による誤嚥予防、インフルエンザなどの感染症予防により入院される方もなく、冬を過ごせたことは大きな成果となった。

給 食

<目標>

食べる楽しみの提供と経口摂取の維持に努める

<実施計画>

1. 食欲を刺激する献立、食事形態の工夫により経口摂取の維持に努める
 - ①「食いたい」食事の調査及び季節感や生活感のある食事の提供
2. 栄養ケア計画に基づき経口摂取機能の適切な評価を実施する
 - ②ソフト食、酵素等を利用した嚥下食の研究
 - ③ファイバー（食物繊維）等の導入による排泄機能の改善

<実施報告>

食べる楽しみの提供と経口摂取の維持を目標に事業を実施し概ね達成できた。

- ①特別献立の提供により日々の食事提供に変化を持たせることができた。また、多職種協働でミールラウンドを行い、栄養ケア計画に基づいて適切な食事形態や姿勢、使用器具等について検討し、経口摂取を維持していくために取り組めた。
- ②ソフト食の試食を実施し、飲み込みやすい硬さや味について改善をおこなった。また、肉や魚の下処理に重曹を使用し、硬さやパサつきの軽減のおいて一定の結果を出せた。
- ③ファイバーの導入について検討をおこなったが、その効果においては個人差が大きく費用面における課題もあるため、献立内容の検討により食事からの食物繊維摂取量をあげられるよう工夫していくことが今後の課題となった。

健康 管理

<目標>

入居者の健康管理と感染症の予防

<実施計画>

1. 入居者の健康管理と観察のポイント、疾病と服薬についての周知

2. 看取り、褥瘡予防、感染予防等の施設内研修の実施
3. 事故の予防と事故発生時の対応の周知
4. 職員の健康管理の為の健康診断実施

<実施報告>

インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症は年間通してなく、発熱者も少なかった。誤嚥性肺炎予防の為、歯科衛生士を中心として口腔ケアの強化と食事前の口腔体操を全ユニットで取り入れた。

抗生剤の服用件数は少なく、尿路感染症での内服だった。

健康維持は体調変化の早期発見に全職員で努めることが出来た。また、変化があった場合に他職種での連携も図れた。

<実施報告>

1. カテーテル管理や、ストーマ管理などは取扱い、観察ポイント、リスクなどをまとめ介護職との連携を図ることが出来た。その他、創傷処置や白癬について周知していくことが出来た。
2. 褥瘡予防のために日常生活の見直し（除圧や椅子の座り替え、体位交換）を行った。感染予防研修は感染委員会で手洗いチェッカーでの確認を行った。看取りの時期では関わりが減ってしまう事もあったので、もっと職員間での連携が必要だと考えられる。また今年度はデスカンファレンスが出来なかった。職員間の知識の共有、連携を強化する為にもデスカンファレンスの実施を次年度の課題としたい。
3. 事故発生時の対応手順、創部の応急処置方法の周知徹底が出来た。事故の再発防止策の具体化、個人だけではなくユニット全体考える事が出来た。
4. 前期・後期職員健診を実施した。

平成 29 年度 デイサービスセンター 青葉 事業報告

<目標>

- 営業日を通じて定員の 15 名の利用者が獲得できるよう努める。
- 地域密着型通所介護事業所として地域に根付いたサービス提供ができるよう模索する。

<実施計画>

1. 施設内事業所と情報共有、連携を図り利用者確保する。
2. 新聞を発行して地域に情報発信する。
3. 月に 2 回実施する地域活動「歌って笑って健康体操」を通して地域住民が気軽に相談できるような環境をつくる。
4. 地域住民からボランティアを受け入れて開かれた事業所になる。

<実施報告>

前年に比べ 12% 増やせたが、定員の 15 名には達することが出来なかった。

1. 居宅介護支援事業所等と連携し、新規利用者の獲得に努めた。今後も連携を図り利用者確保に努める。
2. 新聞を毎月発行し、施設内に掲示やご家族様、大類中学校様へ訪問等を行い、情報発信に努めた。
3. 地域住民からの相談に応じ、必要なサービスへと繋げることができた。
4. 利用者様家族や地域住民などを対象に「歌って笑って健康体操」の他にも「ハーブ入りアロマ石鹸」や「のびのびエクササイズ」、「歌とカホン」、「フラダンス」、「箏と尺八」の演奏会など多くの方に参加して頂いた。

- ・ 実習生を積極的に受け入れた。
- ・ 行事は、年間レクリエーション計画通り実施できた。(別紙)
- ・ リスクマネジメント

事故報告 7 件 主な事故は、服薬忘れ、トイレでの尻もちであった。

ヒヤリハット 58 件 主なヒヤリは、立ち上がり・歩行時のふらつき、歩行器に腰掛けるなどの転倒しかねないものであった。迅速な対応に努め、ご家族様への連絡・報告を行い、関係部署との連携を図った事で苦情には繋がらなかった。

事故・ヒヤリハット報告書の検討、対策の共通認識を図ることで再発防止に努めた。

平成29年度 年間レクリエーション 実施表

デイサービスセンター 青葉

レクリエーションポリシー

レクリエーションをリハビリテーションの一部と位置づけ、参加しやすい形態で提供し、参加することによりADLの維持を図る
 工作、調理などを通して機能の再獲得を図りながら人生の張りや生きがいを提供するとともに、デイサービス継続の動機付けとする

年間レクリエーション計画

| 項目 月 | 長期 レクリエーション | 中期 レクリエーション | 短期 レクリエーション | 季節 レクリエーション | 個別 レクリエーション | 全体 レクリエーション | 地域活動 |
|---------|--|------------------------------|---|----------------|------------------------------------|-----------------------------------|--|
| 4月 | | | 3 工作:こいのぼり 7:風船ハレ 五月飾り 10 ゲーム:ボートレース 11:歌とかん 17 調理:押し寿司 24 ゲーム:玉入れ競争 | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 5日:15名参加 健康体操 19日:19名参加 健康体操 |
| 5月 | | | 1 ゲーム:吹き戻しカーリング 5:リハビリ音頭 8 工作:あじさいの壁飾り 9:歌とかん 12:吹き戻しカーリング 15 調理:こいのぼりワッペン 端午午の節句 22 ゲーム:風船ハレボール 24:歌のボランティア 26:オカリナ 29 ゲーム:狙って落とそう | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 10日:18名参加 健康体操 24日:20名参加 健康体操 |
| 6月 | | 春から夏 秋の花・ ハーブ・ 野菜など | 1 ゲーム:狙って落とそう 5 ゲーム:アイスショットゲーム 9:すごろく 12 ゲーム:風船ハレボール 13:歌とかん 16:おことと尺八演 19 調理:すいとん 26 工作:七夕飾り、28:歌とかん 七夕飾り 3 調理:サイダーゼリー&アイスクリーム | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 7日:17名参加 健康体操 21日:14名参加 健康体操 |
| 7月 | 朝の挨拶時 ■手指運動 ■口腔体操や ラジオ体操等を行う | | 10 ゲーム:風船ハレ 12:岡田姉弟の歌 17 ゲーム:風船ハレ 18:歌とかん、上毛カルタ 21:風船ハレ大 24 工作:匂い袋 31 ゲーム:スーパーボールすくい | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 5日:20名参加 健康体操 19日:11名参加 健康体操 |
| 8月 | 午後の体操 ■下肢筋力体 操 ■タオル体操 ■肩こり予防 体操 ■脳活性化手 指体操 ■尿失禁予防 体操 ■発声訓練 | あさが夏 お秋の花 | 1 簡単調理:かき氷 ゲーム:スーパーボールすくい ジェスチャーゲーム 7 調理:おはぎ、おひつね、お盆、おはぎ作り 14 ゲーム:魚つり 21 工作:手ぬぐい作り 28 ゲーム:輪投げ | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | 季節ごとに張り 絵やちぎり 絵、オブジェ の制作 | 2日:15名 23日:13+1名参加 健康体操 26日:19名参加 アロマ石鹸作り 6日:16名参加 健康体操、ハトリ 20日:16名参加 健康体操 |
| 9月 | | | 1 ゲーム:スリ割り 12 調理:ほろ酔いうさぎ徳頭 14:国旗飾り、十五夜 18 ゲーム:輪投げ 19:歌とかん 21:ガク(歌) 22:大正琴 25 工作:ガク作り 27:歌のボランティア 29:風船ハレ | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 4日:15+1名参加 健康体操、ハトリ 17日:12名参加 健康体操 |
| 10月 | | | 3 ゲーム:障害物競走 2:三線演奏会 9 運動会 11:テレビ特選 大運動会 16 調理:さつま芋茶巾 23 ゲーム:ボールリレー 24:歌とかん 27:FM公開収録 30 ゲーム:足で並べよう | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 1日:17+1名参加 健康体操 15日:15名参加 健康体操 |
| 11月 | 帰りの挨拶前 ■歌 ■漢字クイズ ■連想ゲーム ■しりとり ■パタカラ体 操 | | 1 ゲーム:足で並べよう 4:フラダンス鑑賞 6 調理:けんちん汁 13 ゲーム:風船ハレ 17:工作:クリスマスリース 20 工作:クリスマスリース 21:歌とかん 24:お等と尺八 27 ゲーム:狙って落とそう | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 6日:18名参加 健康体操 |
| 12月 | | 冬から 春の花 など | 1 ゲーム:狙って落とそう 4 工作:干支作り 7:焼きまんじゅう 正月飾り付 11 調理:ホットケーキdeクリスマス 18 ゲーム:掘り堀り 19:歌とかん 19:習字 26 ゲーム:すごろく 25:そば打ち 27:特養クリスマス会 | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 10日:18名参加 健康体操 24日:健康体操 雪のため中止 |
| 1月 | | | 4 ゲーム:上毛カルタ 4.5:書き初め 8 ゲーム:もぐらたたき 15 調理:白和え 18:運営推進会議 22 工作:鬼の帽子作り 29 ゲーム:鬼は外 30:歌とかん | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 7日:17+1名参加 健康体操 21日:19名参加 健康体操、ハトリ |
| 2月 | | | 1 ゲーム:鬼は外 豆まき 5 工作:つるし雛 12 調理:茶碗蒸し 14・16:玉入れ 15:つるし雛 19 ゲーム:風船ハレ 26 ゲーム:玉入れ 27:歌とかん | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | 7日:20名参加 健康体操 28日:17名参加 健康体操 |
| 3月 | | | 1 ゲーム:玉入れ 5 ゲーム:吹いて飛ばそう 12 調理:生八つ橋 14~工作:桜餅 雛祭り 19 ゲーム:風船ハレ 20:歌とかん 21:歌のボランティア 26 ゲーム:風船ハレボール 27:東高校JRC部慰問 | | 毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル | | |

個別レクリエーション

- ・園芸
- ・数字合わせ
- ・総理大臣合わせ
- ・絵合わせ
- ・絵パズル
- ・大人のぬり絵
- ・いきいきカルタ

平成 29 年度 ケアハウス グリーングラス 事業報告

<目標>

入居者がその人らしく自立した生活ができると共に、安心して楽しい共同生活を実現するために、支援を行い、居宅介護支援事業所、デイサービス、ショートステイ等全部署との連携を図り、より快適な生活が送れるよう、必要なサービスを活用し、自分の意思で行動できるように支援する。

<実施計画>

1. 入居者やその家族の相談に応じ、自立した生活ができるよう各種相談・手続き等の支援を行う。
2. 一人ひとりの嗜好を考慮し、高齢者に適した食事の提供を行う。
3. 入居者の心身の状態変化に迅速かつ的確に対応するため、家族や担当介護支援専門員と密に連絡・情報交換を行う。
4. 月 1 回以上、健康チェック（血圧・脈拍・体温・体重等の測定）を実施。また、年 1 回以上、健康診断の受診を促すことで、疾病の早期発見、早期治療に繋げる。
5. 病院・買物送迎を週 1 回以上実施する。
6. 他事業所等、関係機関の担当者へ利用状況の報告を行う。加えて、施設見学者に対し、希望者には入所申込書を配布することで入居希望者を募り、空床発生時に備える。
7. サークル活動・レクリエーション
 - ①入居者相互の親睦を図り、お互いに助け合いながら楽しく生活できるよう援助する。
(入居者によるサークル活動サポート等)
 - ②季節の外出行事を主催することで四季を感じて頂く。また、意欲低下の見られる入居者も参加しやすい行事を提供し、意欲増進を促す。
 - ③介護予防の体操や頭の体操を行い、入居者の健康寿命の増進を図る。

<事業報告>

- ・認知機能、生活機能の低下がみられた入居者に対し迅速な対応に努め、またご家族様への連絡、報告、他事業所等へ状況報告を行い、関係機関と連携を図れた。
- ・一人部屋 1 部屋、夫婦部屋 1 部屋の空きが続いた。そのため、市内外の居宅訪問を実施する事で入居者を募った。しかし、見学・相談はあるものの早急な入居希望ではなく、29 年度は空きとなった。
- ・月に 1、2 回、買物ツアー（カワチ・ヤオコー・ヴィーシーズ）・カラオケ・手芸倶楽部・ラジオ体操・職員手作りゲーム・健康体操等行った。

<入居者の状況>

現在入所者 16 名（男：2 名 女：14 名） 外部サービス利用者：8 割

平成29年度 ケアプランセンター悠ゆう 事業報告

<目標>

1. 信頼関係の構築を図り、地域や他事業所との連携を積極的に図る。
2. 利用者数の確保に努める。

<実施計画>

1. 近隣の病院、薬局、高齢者あんしんセンターや地域の社会資源を活用することにより安定したネットワークの構築、新規契約者の確保ができるように活動を継続する。
2. 地域のイベント等に積極的に参加し、交流を図ると共に当事業所の存在を随時アピールしていく。
3. 当事業所のイベントに参加してくださる地域の方々との相談窓口となり、地域の課題の解決に向けて情報収集、提供体制を整える。

<実施報告>

1. 近隣の病院・薬局・高齢者あんしんセンターと安定したネットワークを確保することで、新規利用者様を多く紹介していただけた。
2. 地域のイベントや活動に参加させていただき、当事業所の存在を知ってもらい、新たな交流の関係を築くことができた。
3. 当事業所のイベントに参加した地域の方々と交流を通し、情報や不足している社会資源を地域ケア会議で提案させていただいた。
4. 実績においては、入院・入所による変動があったが、対象人数が49%増となった。
5. 特定事業所集中減算に関しては、80%を上回る事なく各事業所と連携を確保することができた。

平成 29 年度悠ゆうみなみちよう事業報告

悠ゆうみなみちようの事業運営は、基本理念に基づき、利用者の喜びを支えるケアの提供、利用者の尊厳を守り、個性を重視し、地域の方々に信頼される施設づくりを推進しています。来年度は、ショートステイ及び連結ユニットの稼働再開を最優先とし、加えて、地域貢献を目的とする放課後児童クラブの開所を推進していきたいと思ひます。

利用者の状況

年間平均利用率は、特養で 81.5%と、目標値 97%をはるかに下回り、ショートステイに至っては、全く稼働できませんでした。4月より、夜勤体制が取れず、ショートステイと共に特養1ユニット稼働できない状況に加え、稼働ユニットの退所に伴う補充ができなかったことで、さらに利用率を下げる要因となりました。

職員状況

平成 29 年度（平成 30 年 2 月 26 日現在）の正規職員採用人数は、常勤職員 3 名（内、夜勤可 3 名）、非常勤職員 6 名（内、夜勤専従 4 名）計 9 名、退職者人数は、常勤職員 4 名（内、夜勤可 4 名）、非常勤職員 3 名（内、夜勤専従職員 1 名）、計 7 名。派遣職員入職人数は、33 名（内、夜勤専従 3 名、夜勤可 2 名）、派遣職員退職人数は、25 名（内、夜勤専従 3 名、夜勤可 4 名）。正規職員の入職を進めることができず、派遣職員に頼る状況にあり、その派遣職員も 6 割強 3 ヶ月以内に終了するなど、短期間の入れ替わりが多いため、全体の職員体制も安定しない状況でした。夜勤体制においても、夜勤可能な職員の 12 名（正規職員 7 名、派遣職員 5 名）入職するも、夜勤職員 12 名（正規職員 5 名、派遣職員 7 名）の退職あり、改善が図れていない状況です。

[全体目標]

ご利用者が安心・安全に落ち着いた生活が送れるよう、リスクを予測できるケアに取り組み、また、ご利用者・ご家族からの要望等を気軽にお話頂けるよう雰囲気づくりに努めます。

[実施計画]

< 実施計画 >

1. 入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別ニーズに沿った支援を行う
2. 事故や不安のない（安心・安全・落ち着いた）暮らしを実現する。
3. 部署内及び多職種間の情報共有と連携を徹底し、チームケアを実践する。
4. サービスの平準化と質の向上のため職員研修や勉強会を実施する
5. 地域との連携を密に行い、ボランティアを積極的に受け入れる

[目標達成状況]

1. アセスメントにより個別ニーズの把握に努め、対応（ケア）の徹底に努める。利用者、利用者家族からの生活相談、要望・苦情については迅速を意識して対応した。状態変化や変化するニーズへの対応が課題。
2. 事故・インシデント報告が前年度同様多い状況。中でも知らない間にできた内出血や剥離の報告が多く、予測的介護の実践と共にチームケアを実践していく。
3. リーダー不在時に情報が伝わらないなど情報共有が不十分。また、担当者会議で決定したケア

が実施されないことがあり、そのチェックが必要。

4. 毎月、生活研究所加藤先生による研修（法定研修含む）を開催し、職員のスキルアップに努めている。
5. 地域の高校生のボランティアサークルの訪問が、今年度より毎月 2 回の訪問に変更となった。慰問は 9 月に 2 件開催した。

[次年度への課題]

1. ケアプラン立案の段階から現場職員と共に作成し、に基づく対応（ケア）を徹底し、実施のチェック体制を作る。また、変化するニーズをケアプランに位置づけ、対応（ケア）ができる体制を構築する。
2. 情報の共有を徹底する。担当者会議の位置づけをしっかりと認識し効率的に実施する。ケアプランに基づくケアのチェックを実施する。
3. 情報共有を徹底し、チームケアを実践する。
4. 外部講師招聘を継続し、職員のスキルアップを図る。
5. 地域の高校生のボランティア受け入れを継続、慰問団体等と事前協議により計画的に増やす。また、外出行事を実施する。

[部門別目標]

機能訓練

[目 標]

日々の生活の中で入居者が残存機能を維持出来るように援助する

[実施計画]

1. 個別に状態の把握に日々努め可能な限り自立支援を行う
 - (1) 自立支援を職員が理解する。(2) ケアプランに位置づける。
2. 余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる
 - (1) 午前・午後の活動を日課と業務に位置づける。
 - (2) 個別機能訓練加算が算定できるように体制を整える。
3. 日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。
 - (1) 日常生活に即した訓練（生活リハビリ）をケアプランに位置づける。
 - (2) 自主訓練希望者のリハビリプログラムは機能訓練指導員が立てる。
 - (3) 個別機能訓練加算が算定できるように体制を整える。

[年度目標期達成状況]

生活リハビリを個別にケアプランに位置づけ実施することになっているが実施にあたっては徹底されていない現状がある。毎日の余暇活動も、ユニット毎に歌や塗り絵、ゲーム等を予定しているが実施できないことが多い。おやつ作りなどの季節行事は計画通りに実施。ボランティアは毎月、慰問はその都度受け入れている。

[次年度への課題]

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施を徹底する。日課にレクや作業療法などの活動を取り入

れるための業務体制を再検証する。ボランティアや慰問を積極的かつ計画的に受け入れる。

栄養課

[目 標]

1. これまでの食習慣を尊重し、栄養・食事内容の充実を図る
2. 食事の時間が楽しみになって頂けるよう工夫し、食事提供を行う

[実施計画]

1. 摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める
 - (1) 医務、ユニット等チームケアの実施
2. 誤嚥や誤飲等の事故の予防
 - (1) ソフト食、ミキサー固形食などの嚥下食の提供
 - (2) 状態変化による食事形態の変更にもユニット、医務と連携し迅速に対応する。
 - (3) 食事変更に伴うカンファレンスへの参加
3. 入居者とのふれあい
 - (1) 食事時間に栄養士が食事に立ち会う
 - (2) 定期的な嗜好調査の実施
 - (3) 食事・おやつレクを開催し食事を通してコミュニケーションを図る
4. 適切な食事提供への研究
 - (1) ソフト食、ミキサー固形食などの嚥下食の研究及び提供
 - (2) カロリー主体ではなく、栄養価主体のメニューを提供
 - (3) 地域にある昔ながらの食事の提供
 - (4) 季節感や生活感のある食事の研究

[年度目標期達成状況]

入居者の状態変化に伴う食事形態の対応は、医務、ユニットとの連携により迅速に実施できている。また、形態変更の場合は、管理栄養士が朝昼夕食事時間に状況把握をしている。現在、ソフト食 3 名、ミキサー食 3 名の嚥下食を提供。嚥下食やみじん食の見た目で摂食意欲を損ねてしまうことがあり、美味しく見える工夫の研究を継続している。

[次年度への課題]

嚥下食の研究を継続する。

医 務

[目 標]

1. 入居者の自立支援
2. 感染症の予防

[実施計画]

1. 入居者の健康管理及び自立支援
 - (1) 健康管理 ・ 定期受診や服薬管理・入居者の日々の全身状態の観察・口腔衛生の指導充実
 - (2) 自立支援 ・ 生活リハビリテーションの設定
2. ショートステイ入居者の健康管理

- (1) 利用中の健康管理・相談と薬剤管理。
3. 看護・介護の質の向上
 - (1) 職員への疾病と服薬についての研修の実施。
 - (2) 看取り・褥瘡予防・感染予防等、施設内研修会の実施。
 - (3) 事故予防と事故対応の研修の実施。
4. 職員の健康管理
 - (1) 年2回の健康診断の実施。

[年度目標期達成状況]

概ね計画通りに実施できたが、感染対策や看取りなどの研修会の開催が不十分だった。特に看取りについては、今年度より加算を算定しているため、職員全員が要件等を十分に把握し、医師の指示の基、チーム一丸となり対象利用者を支える体制を強化する必要がある。

[次年度への課題]

感染症対策や看取り、身体拘束廃止、服薬、虐待など看護・介護技術向上のための研修会を定期的、計画的に開催する。

短期入所事業

[目 標]

1. 利用者の自立支援と家庭での生活ペースに合わせた援助を行うと共に家族の介護負担軽減と地域に根付いたサービスの提供を行う。
2. 今年度稼働率常時 50%以上を目指す。

[実施計画]

1. 速やかなショートの手入れ
 - (1) 居宅の介護支援専門員等からの依頼に速やかに対応する。
 - (2) 緊急ショートの手入れが出来るよう仕組みを検討する。
2. 利用者やその家族からの要望等に対する適切かつ迅速な対応を行う。
3. 利用中の事故防止に努め、事故発生及び緊急時には家族・居宅介護支援事業所への連絡など、迅速に対応は基より、事前に家族等と対応について協議しておく。
4. 利用者の情報を全職種で共有する。
5. 地域の民生員や地域包括、在宅支援等の関係機関及び在宅サービス事業者、病院等との連携を図り、地域ボランティア等も積極的に受け入れる。

[年度目標期達成状況]

平成 29 年 4 月より、夜勤体制が取れない職員状況となり、短期入所事業と特養 1 ユニット稼働できず、実績なし。

[次年度への課題]

外部支援事業者や医療機関への営業活動を行い、新規利用者の獲得に努める。特に、地域の介護支援専門員の方々に利用頂けるよう、急な依頼にも極力対応し、定期の訪問により、協力体制の基盤を築いていく。